

若手医師・歯科医師から、平和への希求

社会に向き合わなければ 変わらない

●初期研修医（医療生協わたり病院）

国井 綾 くにい りょう



2015年という第2次世界大戦終結から70年の歴史的節目の年を、第3次安倍政権下で迎えました。過去の戦争によって、多数の命が奪われてきました。お国のためと多くの人の命が動員され、前線では自分たちと同世代の命が飢餓を始めとした原因で亡くなりました。自分がそのような立場であったらと想像すると、とても恐ろしい気持ちになります。同時に、なぜ戦争を防ぎ得なかったのか、今後はくり返してはならないという強い気持ちが込み上げてきます。自分の素直な思いがそうさせるとともに、現在の社会情勢に対する危機感の現れでもあります。

私たちは日本国憲法前文で、「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないようにすることを決意し」ています。その一方で安倍政権は、憲法改正を「歴史的なチャレンジ」として改憲への意欲を示し「国民の信任を得た」といって、集団的自衛権の行使、米軍基地の辺野古移設、消費税増税など民意を無視した政策を進めています。特定秘密保護法の制定、軍事費増加、靖国神社参拝など、侵略戦争に対する反省をもとにした戦後の世界秩序を否定するような道を突き進んでいます。

このような現実の政治と自分たちの生活が

結びついているという実感がわからないという人も少なくないのではないかと思います。2014年12月の総選挙の投票率の低さはそれを体現しているのではないのでしょうか。知ろうとしなければ知ることのできないことも多いですが、他人事でない以上そういつてもいられません。しばらくは大丈夫だろうと現実から目を背けることは簡単ですが、それではあまりにも無責任です。

私は中学生のときに観たテレビドラマがきっかけで医師という職業にあこがれ、家族などの支えもあり2014年4月に無事医師人生のスタートを切ることができました。過去があつての現在、そして未来があります。先の戦争により、子どもだけでない多数の命の夢や希望が不条理に奪われました。「平和のうちに生存する」というあたりまえの権利が奪われた、と言うこともできます。

未来を思い描くことができるのは、平和な世の中であつてこそのことです。社会の発展とは相容れない戦争に私は反対します。これからの社会をつくっていくのは私たちです。社会の現実と向き合うことなくして世の中都合よく変わっていくことはありません。いまを生きるひとりの人間として、しっかり腰を据えていきたいと思っています。